

## 第27回西日本事例発表オンライン研修会 発表概要シート

法人名	スミリンケアライフ株式会社	施設名	ドマーニ神戸
発表タイトル	【介護予防の動機づけにむけた意識調査】		
研究の目的	<p>WHO が発表した2022年版の世界保健統計によると平均寿命が最も長い国は日本で84.3歳である。当施設一般居室の平均年齢は85.9歳で、ADL が低下し要支援や要介護となる方が増えてきており、お一人お一人の生活支援も増えてきている。長年生活してこられたなじみのある一般居室で過ごしたいと思われる入居者も少なくない。入居者の身体機能維持の為に介護予防の取り組みを知ってもらい、1人でも多くの入居者が意識し取り組むようになれば、少しでも長く一般居室で生活出来る事に結び付くのではと感じる。現在の部署では関わる事がほとんどない新入居者に今回はスポットをあてて一般居室で長く生活してもらう為に入居直後から介護予防に興味をもって知ってもらい浸透させることが当施設の重要課題であると考え、介護予防の動機づけにむけた調査を実施した。</p>		
発表の概要	<p>年々平均寿命が高くなるにつれて、ADL 低下や認知症の進行もあり一般居室での生活も限界がある中、なじみのある居室で過ごしたいという思いや、いざ介護が必要になった時、介護棟の居室数も少ない為スムーズに住み替えができていないのが現状にある。そこで少しでも長く居室での生活ができるように、今回は介護予防の必要性を早期に知っていただき、身体機能の維持、向上に取り組んでもらう為の動機づけにむけた調査を実施した。</p>		
研究方法	<p>1) 介護予防意識調査アンケート(資料1) 介護予防への関心度と参加の有無、自身で介護予防を行っているか、またその内容を調査した。 2) 基本チェックリスト (資料2) 介護予防へ参加している人と、していない人に分類し、7領域とフレイルの割合を比較した。</p>		
成果・結果	<p>1) 介護予防に関心があると回答した人は97%にものぼり、実際に自身で取り組んでいると回答した人は83%だった。また、当施設の介護予防に参加したことがあると回答した人は60%という結果。今回の意識調査アンケートでは、想定以上に介護予防に関心をもって取り組まれていることが明らかとなった。 2) 対象者の入居前情報では自立がおよそ8割だったが、今回の調査結果ではフレイルとプレフレイルを合わせて7割を占めていた。これは、対象者の半数以上は支援が必要、もしくは支援が必要になる前段階にあるという結果で、入居前情報とは大きな相違があることが分かった。</p>		
考察	<p>今回の調査では、対象者の年齢、85歳以上が8割を占めており、介護予防の関心度が高かったこと、自分でも意識して介護予防に取り組まれていることがわかった。また、基本チェックリストの結果、半数以上は支援が必要もしくは支援が必要になる前段階であることが明らかになった。今回の調査にて、介護予防への関心度が高い結果となったことで今後の介護予防への参加へと繋がる取り組みを検討し実施することが入居者の生活の質を向上、又、一般居室での生活を長く継続することにも役立つのではないかと考える。</p>		

アピールポイント 伝えたいこと	<p>現在、当施設では介護予防委員会を筆頭に他部署とも連携し年に2回、一般居室の入居者と特定契約（介護認定を受けられた方で介護、生活支援が必要な方）を結んでいる入居者に対して体力測定（チェックリスト・ロコモ）を行い、結果をお知らせすると同時にリハビリスタッフより個々に必要なメニューの内容を説明している。他に、館内で行っている脳活を意識したウォークラリー、近隣での遠足などを実施している。今回はさらに自発的に介護予防に意識を向けてもらうべく、新入居者（入居後1年以内）を対象に介護予防意識調査を実施した。今後の展望として、施設内で実施している介護プログラムの内容が具体的にわかる表の作成や、介護予防についての知識についての講習会などを行い入居者が健康で長生きして生活できる指標として介護予防の浸透に繋げていきたいと思っている。</p>
--------------------	---